ひかりといのちのなかま

光寿院 住職　酒生 文弥

私のメンター（魂の師）

「私という名の船」を、ここまで運んでくれたのは、数多のメンターの謦咳（けいがい）です。帆船に例えるならば、帆を手入れしデッキを磨くなど命を磨くことは私の努力です。しかし、如何に船を立派に整備しても「風」が「命の船を運んで（運命）」くれなかったら船は一向に帆走できません。振り返れば私は風を吹かせて頂いたメンターに実に恵まれてきました。

その幾人かを素描して深い感謝の念を捧げます。

親鸞・両親

在家のまま家庭の葛藤をかかえながら、「俗（人の谷間）」をお念仏に生き抜かれた親鸞四聖人は、宗教界最大のメンターです。八世紀から続くお寺に生まれ、浄土真宗であったことは幸いです。自らの罪悪・煩悩を見据える、「摂取不捨（裁きなしにもれなく救う）」の無限のひかりといのちに包まれ赦され生かされていることを知る、死はなく「往生」あるのみ、「ご信心（気づき）」だけで現世も来世も最高の人生が開ける、成仏したら菩薩としてこの世に戻ってきて存分に人々を加護する（お陰様の守護）。死生観として完璧です。

両親は、愛に満ちた家庭人であっただけでなく、生涯を世のために捧げる人でした。父は、ボーイスカウト・刑務教悔師・宗教政治家として縁ある人々を無差別平等に助ける人でした。母は生涯をガールスカウトに捧げ、いまも現役で日々檀家さんをお参りしています。

松下幸之助塾長

大学卒業時、忽然と松下政経塾が創設されました。運命です。最終面接でお逢いした松下幸之助塾長は、じっと優しくも風格に満ちたまなざしで私を見据え、「運と愛嬌」を感じて私を選んでくださいました。「屋台一件をちゃんと経営できる人は松下（電産）かて経営できるんやで」。「自分を経営できんかったら何も経営でけへん」「自己経営に次の三つを護ってくれ。ダム式経営に徹底せいや（借金をせずに貯金・内部留保をして生活・経営する）。相場（ギャンブル・株・先物・FX・ビットコインなど）はやったらあかんで。連帯保証人になったらあかんで」、真っ先に頂いた塾長講話です。「人間は万物の王者や。どんな困難にぶつかっても必ず乗り越える力をもっておるんや」、コロナの今かみしめています。「ころんだら立ちなはれ、立ったら歩きなはれ」、挫折の多い人生で励まされました。「大忍して、素直な心で衆知を集め、自修自得で本質を見極めて、日々新たな生成発展をはかりなはれ」。あまりに多くの言葉を頂きとても尽くせませんが、親鸞（「あれは偉いやっちゃ」と仰っていました）と松下塾長の言霊は、常に私の魂を揺さぶってくれています。

元谷外志雄塾長

七年前、ルーマニア政府より商工会議所創設を委託されると同時に、政経塾一期同窓の中川暢三氏のご紹介で邂逅（かいこう）し、APA社長の元谷芙美子さんが藤島高校先輩というご縁もあって、「勝兵塾」講師特待生としてずっと可愛がって頂いています。ゼロからスタートし、今や日本のホテル業界最大の

ＡＰＡホテル＆リゾートグループの創設者です。松下塾長と元谷塾長は、我が国立志伝の人物として共通する点が多くありますが、松下塾長が「柔（にして折れない）」の方であるとすれば、元谷塾長は「剛（にしてしなやか）」の方です。東京進出いらいマオスーツ（毛沢東の正装）に身を固め、剛毅を演出されていますが、ペンネーム藤誠志で近現代史・国際情勢など優れたエッセイストであり、ホテルや月刊誌のデザインも手掛けられる繊細で芸術的才能も深い人物です。「運は考え方次第」「事業とは限りないロマンである」など、毎月座右の明言を発表されていて、実に含蓄のある教えばかりです。小学6年生の時、お父様が往生され、これからは自分が一家を養っていかねばと決意され、まず金融を知悉（ちしつ）するために信用金庫で修行され、起業されて今年で半世紀になられます。父を亡くされた折「逆境こそ光輝ある機会なり」と一番の座右を想われ、事業という「船」に一番大切なのは、それが逆風でも「風」である。逆風でも帆を操れば船は前進できるが、無風では万事立ち行かない。コロナ禍でホテル業は大打撃ですが、それでも創意工夫を尽くして黒字を出し、さらに行き詰ったホテルを買収して業界シェア二割をめざして驀進される。まさに有言実行の、今現在最大のメンターです。

緒方彰先生

ＮＨＫ名解説委員長であられた緒方彰先生は、政経塾いらい私を一番買って頂き可愛がって頂いた恩師です。ゼロ戦特攻隊員として小松基地で終戦を迎えられ、国際情勢に精通された温厚篤実なジャーナリストとして、戦後の視聴者に深く愛された方でした。政経塾理事として「酒生には誰の借り物でもないオリジナルな思想・世界観がある」と言って頂き、私が塾を辞した後も祖師谷のご自宅に僧侶として毎月お招き頂き、往生を遂げられるまでご教導頂きました。私にはゼロ戦乗りだった師が五人もいるのですが、緒方先生は生ける近現代の鏡でした。

カーター大統領・マンスフィールド大使・ダライラマ法王

私は海外のメンターにも恵まれています。各国の元首・大使・実業家に知己も多いのですが、とりわけ「第二の祖国アメリカ」の、このお二人は心に残る師です。

友人の金光教泉尾教会・三宅善信執務長に依頼されて、緒方彰先生との対談をセットしたことがご縁で、カーター大統領と懇談する機会を得ました。敬虔（けいけん）なサザン・バプティストであられ、当時、若輩の私の質問やお話に誠意を尽くすお話を頂きました。人権弾圧が国際的な大問題になっている現在、カーター大統領の信念「人権外交」こそ世界諸国家の指針であると思います。

福井には沖縄返還の立役者であった故・若泉敬先生がおられ、各国大使が来福、私は福井放送のインタヴューで故・マンスフィールド駐日米大使とも懇意にさせて頂き、Fumiya, my friend と呼んでくださいました。モンタナの鉱夫から身を立てられた元上院議員で、その気さくでユーモアに溢れるお人柄は万人に愛されました。「日米は世界で一番大切な国際関係」を信条とされ、まだ中学生の福井商工会議所会頭令嬢の花束贈呈に「電話番号おしえて」と返し、明るい笑いに満ちた光景が焼き付いています。後に、ワシントンＤＣのオフィスにも取材にあがりました。

ダライラマ法王については、既に既稿で述べていますので手短になりますが、三回の懇談を通じて強調された「西洋の科学と東洋の智慧の幸せな結婚」は、「ＡＩＲ文明をユートピアに！」「ＡＩを仏陀に！」という私の信念のコアとしてずっと息づいています。

この他、過去・現在の幾多のメンターの方々、私の魂に綺羅星のごとくまたたいています。

これからは、私自身が若い世代のメンターとならせて頂くことで、最高の人たちの言霊を世に波動させて行きたい、と念じています。

酒生（さかこう） 文弥（ふみや）

1956年9月8日 福井市篠尾町
浄土真宗本願寺派浄福寺
（753年創建）に生まれる
1980年3月31日 早稲田大学
政治経済学部卒業
1982年3月31日 (財)松下政経塾
（第1期生）修了
1987年3月31日 龍谷大学大学
院博士後期課程修了（仏教学・
比較宗教学）
同大学院から昭和59年9月～
昭和60年8月カリフォルニア
大学大学院宗教学研究科へ文
部省奨学生留学
1986年1月～12月ニュージャ
ージー州立ラトガース大学大
学院へロータリー奨学生留学
浄土真宗本願寺派 得度（僧籍）
教師（住職資格） 顕座（僧侶最高位）
光寿院 www.kojuin.com/